

梶子遺跡発掘調査 現地説明会資料

2019年3月3日

浜松市文化財課



発掘された大溝

↑今回の発掘調査で見つかった大溝は、堆積土の特徴や、出土品の時期などから伊場大溝の上流部分と考えられる。大溝はこれまでに見つかった範囲で長さ2kmにも及び、上流から下流まで大量の木簡や墨書土器が出土している。今回、大溝の中から見つかった木簡は、箱の蓋と考えられ、表面に「筆墨紙櫃」と墨書で記されている。記された文字は箱の用途を記したものとみられ、奈良時代に敷智郡家で使われた文書箱と考えられる。

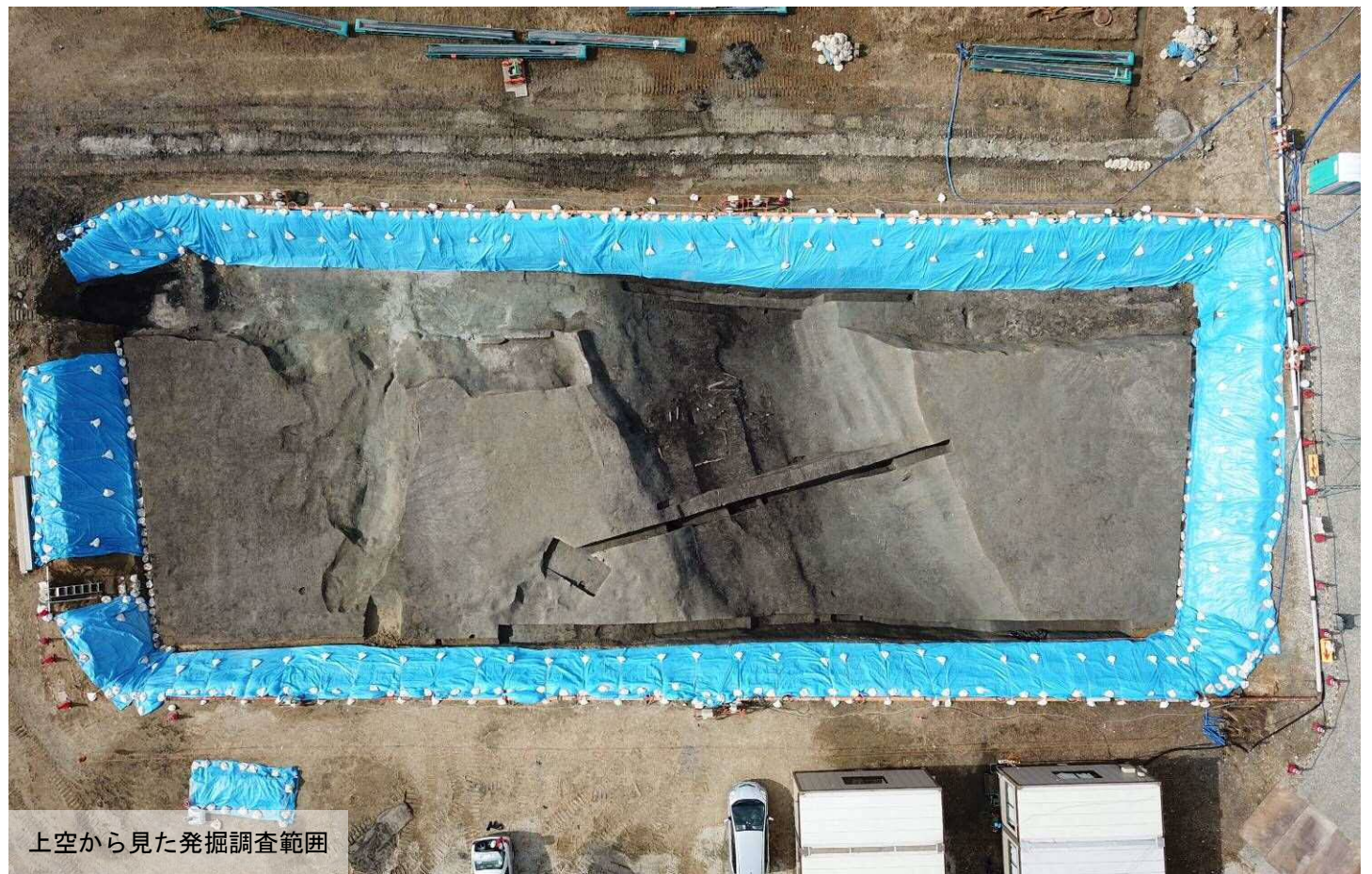


←木簡のほかに、奈良時代から平安時代にかけての墨書土器が5点出土した。写真の土器は、奈良時代の坏(つき)の底面に「主政川前」と墨書されている。「主政」は、郡家に仕えた人物の中で「大領」、「少領」に次ぐナンバー3の地位にあたり、「川前」は人名と考えられる。



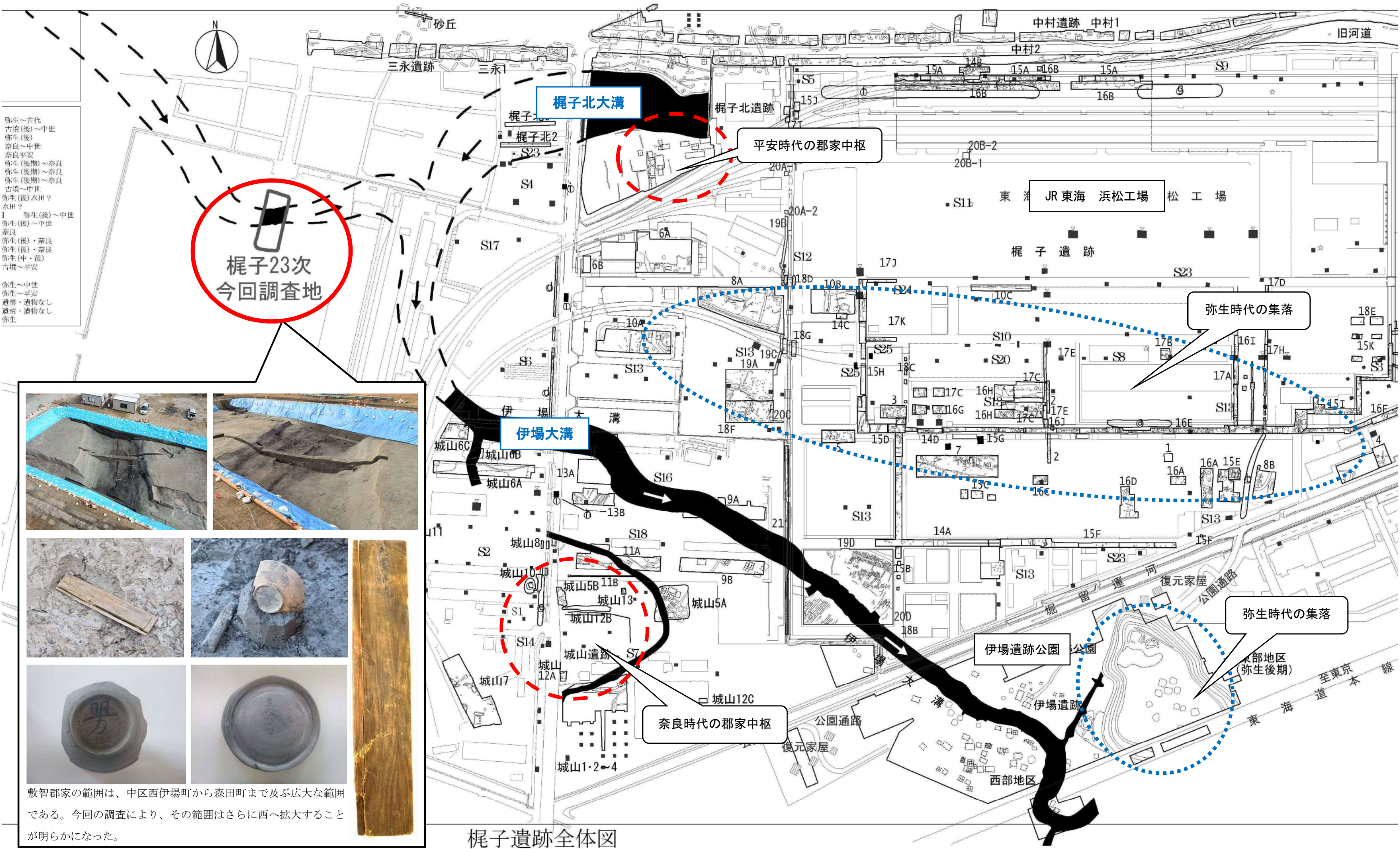
※注意事項

- ・新聞やテレビ、ホームページ等で現地説明会の様子が紹介される可能性がありますので、あらかじめご了承ください。
- ・SNSやインターネットで写真を掲載する際、個人が特定されるような写真は掲載を控えていただくようお願いします。



上空から見た発掘調査範囲

梶子遺跡全体図



- 弥生～古代
- 古墳(後)～中世
- 弥生(後)
- 奈良～中世
- 奈良平安
- 弥生(後期)～奈良
- 弥生(後期)～奈良
- 弥生(後)～奈良
- 古墳～中世
- 弥生(後)水田?
- 水田?
- 1 弥生(後)～中世
- 弥生(後)～中世
- 奈良
- 弥生(後)・奈良
- 弥生(中・後)
- 古墳～平安
- 弥生～中世
- 弥生～平安
- 遺構・遺物なし
- 遺構・遺物なし
- 弥生



敷智郡家の範囲は、中区西伊場町から森田町まで及ぶ広大な範囲である。今回の調査により、その範囲はさらに西へ拡大することが明らかになった。

梶子遺跡全体図